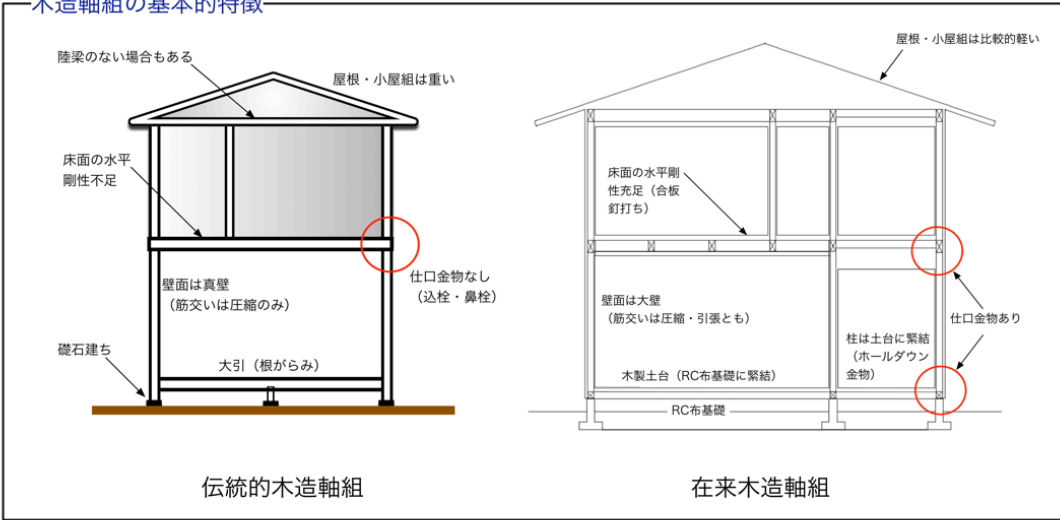


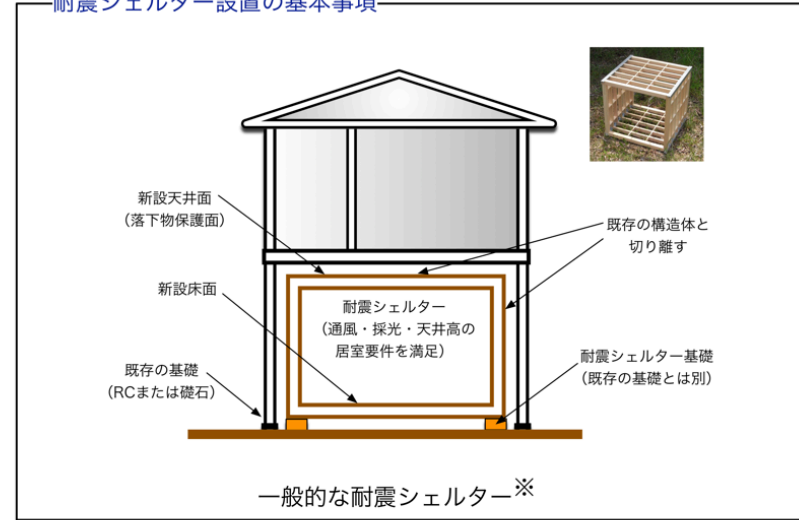
木造住宅の耐震補強要領

注) 本要領図は主に伝統的な木造軸組を対象としているが、在来工法の木造軸組でも変形能力を重視した補強における共通事項である。ただし在来工法と伝統構法の構造計算では設計クライテリア（最大応答変形角）が異なることに注意。

木造軸組の基本的特徴

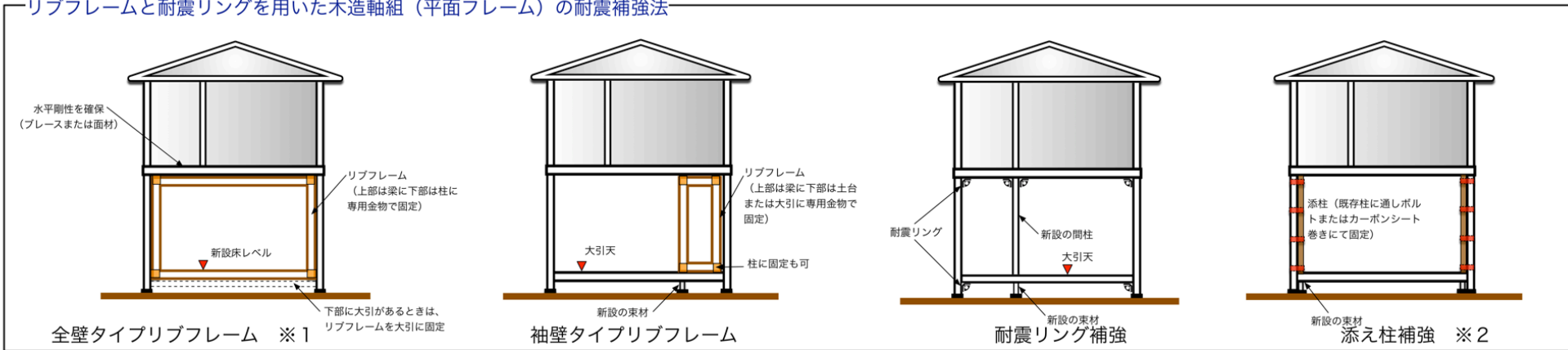


耐震シェルター設置の基本事項



※) 耐震シェルターは建物の補強ではなく、建物が倒壊しても生存空間と避難経路・救出経路を確保するもので、傾いたり損傷することは起こりうることに注意。常時の状態では居室としての条件を満足することが求められる。

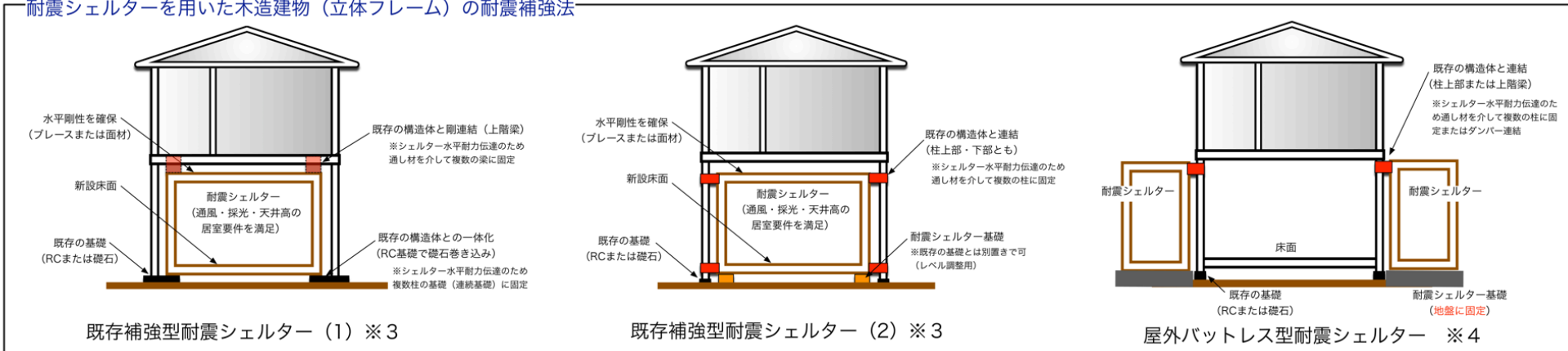
リブフレームと耐震リングを用いた木造軸組（平面フレーム）の耐震補強法



※1) 上階床面が剛床でないとき、フレーム直交方向の変位差（位相差）のためリブフレームが面外に損傷する可能性がある

※2) 既存柱と添柱の接合間隔は個々の部材の細長比が限界細長比以下となるよう決定する。（例えば $\lambda \leq 30$ ）

耐震シェルターを用いた木造建物（立体フレーム）の耐震補強法



※3) 一つの耐震シェルター（居室）で住宅全体を支える場合がいわゆる「一室補強」であるが、既存建物との一体化、基礎部分の結合など施工的に困難な場合が多い。

※4) パトレスは屋内に設けることもできるが、基礎施工の理由で外部に設置するのが一般的である。またパトレスは片側だけの場合もあり、図と直交方向の力に対しても考慮する必要がある。